

委員から提出された研究課題一覧 (研究課題の詳細については資料6-1を参照)

| | 基礎研究 | 疫学研究 | 予防に関する研究 | 診断に関する研究 | 治療に関する研究 | ケア(支援)に関する研究 |
|------|---|---|--|---|---|--|
| 骨折予防 | 病態解明に向けた基礎的な調査研究(戸山) 加齢に伴う骨強度低下に関連するコラーゲン架橋分子の同定と介入法の開発(中村) ~5年 | 高齢者の転倒の実態と危険因子の解明に向けた大規模調査(鈴木) ~2年 高齢者の転倒予防のための薬物治療も含めた対策方法の確立(鈴木) ~5年 大腿骨頸部骨折発生数に関する経年的なNation Wide研究(中村) 10年~ | 高齢者の転倒の実態と危険因子の解明に向けた大規模調査(鈴木) ~2年 高齢者の転倒予防のための薬物治療も含めた対策方法の確立(鈴木) ~5年 | | 骨粗鬆症の運動療法についての大規模無作為化比較対照試験(大淵) ~5年 Bisphosphonateによる85歳以上の高齢者に対する大腿骨頸部骨折防止効果の検討(中村) ~5年 | 骨粗鬆症の運動療法についての大規模無作為化比較対照試験(大淵) ~5年 |
| 膝痛対策 | 病態解明に向けた基礎的な調査研究(戸山) | 実態把握に向けた大規模横断的調査(戸山) ~5年 足部の変形と膝関節症、腰痛症との関連に関する研究(大淵) 膝痛者の長期的予後の検討(大淵) 10年~ 加齢に伴う膝関節の変形と可動域制限に関する長期縦断的研究(中村) 10年~ 膝関節痛・腰痛と要介護状態との関連に関する研究(水間) ~2年 膝関節痛・腰痛とADL(APDL)との関連に関する研究(水間) ~2年 腰痛と膝痛の合併頻度と生活活動性への影響に関する横断的調査(岩谷) ~2年 | 発症・重症化を予防するための至適運動プロトコルの確立(戸山) ~5年 膝関節痛・腰痛と要介護状態との関連に関する研究(水間) ~2年 膝関節痛や腰痛に対して有効な評価システムとアプローチに関する研究(水間) ~5年 | 高精度早期画像診断技術の確立(戸山) ~2年 関節マーカーを用いた早期診断と予後予測の確立(戸山) ~5年 3次元動作解析を用いた歩行障害、ADL障害の解明と器具等の有効性の検証(戸山) ~5年 関節軟骨の破壊と磨耗を評価する代謝マーカーの開発(中村) ~5年 | 新規非ステロイド性消炎鎮痛剤セレコキシブ(COX II 選択的阻害剤)及びグルコサミンの変形性膝関節症進展防止効果に関する研究(中村) ~5年 | 膝痛者へのセルフケアの検討(大淵) ~5年 民間療法の効果の検討(大淵) 膝関節痛・腰痛と要介護状態との関連に関する研究(水間) ~2年 膝関節痛や腰痛に対して有効な評価システムとアプローチに関する研究(水間) ~5年 |
| 腰痛対策 | 病態解明に向けた基礎的な調査研究(戸山) | 実態把握に向けた大規模横断的調査(戸山) ~5年 足部の変形と膝関節症、腰痛症との関連に関する研究(大淵) 骨粗鬆症の椎体骨折が高齢者の腰痛発生に及ぼす影響についての疫学研究(中村) ~5年 腰部脊柱管狭窄症の診断基準の作成と腰痛及び下肢痛に及ぼす影響の解明(中村) ~5年 膝関節痛・腰痛と要介護状態との関連に関する研究(水間) ~2年 膝関節痛・腰痛とADL(APDL)との関連に関する研究(水間) ~2年 腰痛と膝痛の合併頻度と生活活動性への影響に関する横断的調査(岩谷) ~2年 | 発症・重症化を予防するための至適運動プロトコルの確立(戸山) ~5年 高齢者の腰痛における抑鬱状態の関与と鬱状態への介入による腰痛改善効果の検討(中村) ~5年 膝関節痛・腰痛と要介護状態との関連に関する研究(水間) ~2年 膝関節痛や腰痛に対して有効な評価システムとアプローチに関する研究(水間) ~5年 | 痛み・しびれの可視化のための研究(戸山) ~5年 MRIを用いた脊髓投射路及び末梢神経イメージング法の開発(戸山) ~5年 腰部脊柱管狭窄症の診断基準の作成と腰痛及び下肢痛に及ぼす影響の解明(中村) ~5年 | より安全で低侵襲な手術法の開発(戸山) ~5年 高齢者の腰痛における抑鬱状態の関与と鬱状態への介入による腰痛改善効果の検討(中村) ~5年 | 民間療法の効果の検討(大淵) 膝関節痛・腰痛と要介護状態との関連に関する研究(水間) ~2年 膝関節痛や腰痛に対して有効な評価システムとアプローチに関する研究(水間) ~5年 |
| その他 | 市町村等の自治体における運動器疾患予防政策に係る調査研究(荒井) 3 ~5年 運動器疾患予防対策の効率的な普及手法の開発(荒井) 3 ~5年 | 生活の自立をエンドポイントとした統計の整備(大淵) ~10年 膝痛、腰痛有訴者の訴えと機能の長期自然経過(岩谷) ~10年 | IT技術を用いた日常生活の中での運動器疾患予防手法の開発(荒井) 5年 行動変容ステージに基づいた運動器疾患予防カリキュラムの開発(荒井) 3年 | | 虚弱高齢者の運動器リハビリテーションへのコンプライアンスに関する研究(岩谷) ~2年 脊柱・脊髄疾患(頸髄症、脊柱管狭窄症)による生活機能低下の構造解析(岩谷) | 虚弱高齢者の運動器リハビリテーションへのコンプライアンスに関する研究(岩谷) ~2年 脊柱・脊髄疾患(頸髄症、脊柱管狭窄症)による生活機能低下の構造解析(岩谷) |